

2013年3月22日

第16号

自然と文化だより

発行:NPOシニア自然大学校

自然と文化科

目次

P1 副代表挨拶

「研究科なのに？」

P2 今号の TOPICS

一年を振り返って

P3 新任幹事のコーナー

社会貢献活動について

P3 仲間たちの近況報告(1)

1班 木々さんこんにちは!

P4 仲間たちの近況報告(2)

2班 知らないことだらけ

3班 にわか文楽愛好家

P5 仲間たちの近況報告(3)

4班 宝生流 謡

P5 リレー随筆

パオ〜ン!! ボルネオの声

P6 俳句・川柳サロン

P6 私の玉手箱

「バードカーピングの小鳥たち」

◇自然と文化だより

16号に投稿頂いた皆様、有難うございました。自然と文化だよりも16号で本年度の中締めです。今号のTOPICSは西村さんに今年度を振り返ってもらいます。また山本副代表からはもう少し探究心を表に出そうよとのエールが送られています。

東日本大震災2年が過ぎました。風化させない為にとか言う番組が有りましたが、2年で風化という感覚が出てくるというのが本当に寂しいです。復興の手助けになるように意識して参画したいと思います。

N.Take

「研究科なのに？」

副代表 山本祥子

今年度の研究科の「活動報告会」は2月8日にあり、自然と文化科も2012年度の「活動報告」を行いました。リハーサルもやり、報告そのものはスムーズに聴きやすく進行したと思いますが、内容についてはこれが「研究」という活動を行うと銘打っているグループのものなの?という物足りなさを禁じ得ませんでした。それに、この「活動報告会」という名称も以前は「研究発表会」というものだったはず。

それで、自然と文化科でも、2007年からこの発表会に発表するべく、「植生調査」活動を行ってきました。箕面、武田尾の植物観察場所をフィールドに、樹木種の定量的集計、樹種、草本の定性的集計を行って、それぞれの場所の植生の特徴をつかんで、その結果を出してきましたし、シダを観察して、その結果をシダ図鑑としてまとめることもできました。

自然と文化科には、植物について非常に深い知識を持った人が多いし、野鳥、昆虫にも堪能な人も多く、また、歴史に詳しい人もおられます。そういう知識を持っているだけでは惜しい!「何で、この山に外来種のこんな樹木が多いのだろう?」と感じたら、その山の過去を調べてみてはどうでしょう。仲間とともに「なぜ?」という疑問を出し合って、調べてみるという楽しみ方もいいのではありませんか?最初の植生調査の記録を表からグラフに作ってくださった方があって、そのグラフを見ていると、箕面の道路沿いの樹木がどこも同じようにあるのではなく、地域差があることに気付きました。「何で?」とその道路の通っている場所を見ると、山腹だの、



切通しだの、尾根だのがあって、その場所の違いが樹木の種類の違いに関係があるのかなと思い付きました。「研究」とはとても言えないたわいないことでしたが、おもしろかったです。このおもしろさ、楽しさは仲間といっしょにやったことで生まれたものです。

これからの活動についてのアンケートで、「調べたり」、「研究的な活動がしたい」という答えが、何人もあったと聞いて、とてもうれしいです。「何でやる、ちょっと調べてみようか。」を出発点に、2013年度以降の活動にこの希望が生かされていくことを切に願っております。



一年を振り返って

総務専任幹事 西村彦二

総務が最も忙しいのは、4月の第1週。総会、オリエンテーション、その後に続く懇親会と精魂尽き果てます。昨年は4月6日でした。つい先日のような気がするのに、今年もその日（4月5日）がすぐそこまで近づいています。早いですね、1年経つのは！

総務の担当業務を通して、この1年を振り返って思うことは、自然と文化科の所帯が大きくなり、また人の層（年次）も厚くなるに従って、色々な場面で軋轢が生じていることです。予算の使い方しかり、班長業務のプレッシャーしかりです。

昨年4月から運営委員会が正式に立ち上げられたので、このような問題も次第に解消してゆくと思います。

前任者作成の「総務グループの担当業務」には、9つの項目がリストアップされており、1～8には、代表の補佐、会計業務、会議室・OA 機器の手配、救急バッグ・ギガホンの管理、科員のメールアドレス管理などが列記されており、9番目に「その他、活動全般について科のスムーズな運営に必要な事項」とあります。今年はそこまで手が回らなかったな！と反省です。

先述の“班長業務のプレッシャー”ですが、当科には「新入科員が班長をする。」という慣例があります。あまり負担に感じない人もいる一方で、大きなプレッシャーになっている人がいるのも事実です。先月、9期・10期の班長さんと代表・副代表との意見交換を行い、来年度からは、この慣例を廃止し、「2年目以上の科員か、新入科員でも“やってみよう”という意思のある人の中から選ぶ。」に改めようということになったので、ここで皆さんにお知らせしておきます。

今年度も残りわずかですが、総務の仕事は、4月5日の総会に向けて、これからラストスパートです。

ところで、「自然と文化だより」12号に“ロシアの世界遺産を訪ねて”を投稿しましたが、その後、昨年4月にベネルクス三国（オランダ・ベルギー・ルクセンブルグ）と、10月にマレーシア（マレー半島）へ行ってきました。相変わらずの駆け足旅行でしたが、たくさんの珍しい植物をみてきました。その中で特に印象深かったオランダ・キューケンホフ公園のチューリップとマレーシア・マラッカで見

たマラッカノキを紹介します。



マラッカノキ

インド・スリランカ・東南アジア原産、トウダイグサ科の半落葉で樹高5～12m。2～5月に黄緑色の小花をつける。果実は径1.3～2cmで6～12月に熟す。酸味と渋みが強く、乾燥してジャムやピクルスの素材にする。薬用では抗酸化作用があり、うがい、洗髪剤として利用。正倉院の「種々薬草」にアンマラ（奄麻羅）と記録されているのは、本種の果実。（別名：アムラ、インドスグリ）

新任幹事のコーナー

社会貢献活動について

4班 川井 むつ子

痛みのある膝への負担を考え、今年度は社会貢献委員会に所属しました。

そして社会貢献幹事として上半期前半（5月、6月）は、シニア観察会の渉成園、鶴見緑地、5月の箕面観察会裏番組の京都植物園とも下見の準備や下見を済ませているにも関わらず、悪天候に見舞われすべて中止になりました。

鶴見緑地のシニア観察会については、本番当日観察リーダー方が現地へ集合直後突然の豪雨に見舞われ、主催者側の意向で中止になり出鼻を挫かれました。

今年度最初の本番実施となったシニア観察会は7月末の長居植物園でした。真夏の炎天下、熱中症にならないように木陰を求めながら水分補給の休憩を取り、参加者への体調を第一に考えての観察会でした。

下半期は3回の京都御苑シニア観察会、相楽園シ



京都御苑下見

ニア観察会、万博ごみゼロウォーク、ろうきん祭り、他に箕面観察会の裏番組として9月の

京都御苑、11月のNHK・BKプラザ見学、大阪城公園の観察会と、10月11月は定例の金曜日活動に加え、社会貢献活動行事が集中し上半期に比べ過密スケジュールとなりました。

幹事の役割として、観察会リーダーやその他の行事に各班何名という募集に要請人数が集まり難く苦慮しましたが、協力頂いた観察リーダーの分かりやすいユーモアを交えた説明と和気藹々の雰囲気

のシニア観察会は、参加者から又参加したいと心から喜んで貰えました。下半期最後の行事は、箕面山大掃除大作戦への参加です。「自然と文化科」のフィールドでもある箕面のオケ原林道コースの大掃除をしながら、こもれば展望所から箕面の滝までの急な下りを膝の痛いのも忘れ、紅葉の箕面を清々しい気分で下山する事が出来ました。

自然と文化科 仲間たちの近況報告（1）

木々さん こんにちは！

笹井 宏悦

今日は節分、明日は立春。良い天気の子もあるが、毎年この時期になると何となく気持ちが軽くなり、春の陽光を嬉しく思う。しかし今年はちょっと違って、12月に受診した健康診断で再検査が2つあり、何かすっきりしない。そんな中1か月ぶりに金剛山へ行った。アイゼンが必要というところまではいかないが、頂上付近では結構積雪があった。登山しながら、木々の冬芽や冬ならではの樹形を観て楽しんだ。フサザクラの立派な冬芽、タムシバの微



かな香り、尖ったクマシデの冬芽。シラキの愛らしい葉痕。大半の木々たちはまだまだ厳しい冬環境に耐えなければいけないが、しかし一方、帽子を脱いで伸び伸びしていきそうな元気な木も

ある。サワグルミさんだ・・・「こんにちは！」と声をかけた。とれた芽鱗から薄く金色に光った葉脈が見えている。帽子！を半分被って「早く取りたいなー」と訴えているような芽もある。やがては、複葉の葉っぱが、出てくるだろう。どんな出方をするだろうか。今度会う時が楽しみである。楽しみで



思い出したのは、「ユリノキ」の葉の展開である。昨年、5月上旬には、すでに1つの冬芽から3枚目の新葉が展開し始めていたので、少しがっかり。今年こそは

1枚目の新葉が出始める時に行こうと思う。ところで、金剛山からの遠方風景で、南東方向に大峰山系の山々が眺められるが、なかなかすっきりとして綺麗に見える時が少ない。今日も冠雪している山々の景色が見られたが、今一つであった！植物観察も楽しいが、ぜひ一泊して朝夕の山の景色と星座を眺めてみたいものである。行ってみたい山はいくらでもあるが、まずは地元の山から・・・

知らないことだらけ・・・

大原 香

母の三回忌で故郷奄美に3泊4日で帰省した。いつもだと用事を済ませるととんぼ返りするのだが、今回は何故かゆっくりしたかった。で、その内の1日を使って、島の南の方に足を延ばすことにした。

観光業をしている甥に家族割(´▽`)のガイドを頼み、出発した。ひと昔前なら3時間かかる行程が、トンネルのおかげで1時間弱で奄美第二の町、古仁屋に着くという。

道中の道端に帰化植物のシロノセンダングサがまるで植栽したように咲き乱れていた。



もちろん、あちこちにヒカゲヘゴや蘇鉄などお馴染みの亜熱帯の植物も。車中から白い花を付けた木を見つけ「何?」と聞くとサクラツツジとのこと。亜

熱帯の花にしてはとても清楚な花だった。

途中、神屋原生林のさわりだけ案内してくれた。あまりの感動に写真を撮るのを忘れてしまった。田中一村さんの絵画の世界がそ



こにあった。

南に下るにつれて松枯れが目立ち、古仁屋に着くころは、酸性雨の後かと思いがうような松の白い幹だけがよきによき立っていて異様な光景だった。薬剤散布も考えたが自然の淘汰にまかせたらしい。

フェリーで加計呂麻島(「男はつらいよ・寅次郎紅の花」の舞台になった島)にも渡った。大島海峡というのだそうだ。海峡を持つ島は奄美だけとのこと。甥が自慢げに語った。なんと旧海軍の軍艦が身を隠すために利用されたこともあったとのこと。加計呂麻島では、弾薬庫跡や防備衛所跡にも足を運んだ。

知らないことだらけだった。



にわか文楽愛好家

御旅屋 瑛一

大阪府知事、大阪市長に橋下さんが就任して以来、数々の予算削減案、改革案が提案、実施されていることは皆さんもご存じのとおりです。その中の一つに人形浄瑠璃「文楽」への支援削減があります。この問題がマスコミに取りあげられ、関心が持たれたためか、公演の入りは良くなったようです。

ここ数年、連れられて文楽を年3~4回程度、大阪公演の行われる国立文楽劇場に見に行っています(観賞に)。どの演目も筋書きは違いますが、聞かせどころ(見せ場)は義理・人情・涙ものが多いようです。文楽は太夫(浄瑠璃語り)、三味線(三味線弾き)、人形(人形遣い)から成り立ち、演じられています。太夫と三味線との掛け合い、それらと人形との掛け合いなど結構見どころがあります。また人間国宝の芸術にも触れることが出来ます。

昨年11月に「通し狂言仮名手本忠臣蔵」が公演されました。全段連続公演で午前10時30分から

午後9時頃まで二部に分かれて公演されました。さすが1日では大変なので2日に分け全段を見ました。正味約10時間の長丁場でした。



筋書きはご存じのとおりですが、舞台上で演じられる場面は義理・人情・涙ものばかりで、つづられています。作者と観客はこれらを隠れみのにしてこのうち入り(かたき討ち)を称賛したものと思われま。疲れましたが結構楽しめました。平成24年の観客は10万人強で大阪市の課した目標よりやや少なかったようですが、日本伝承文化の一つとして見守っていきたいと思っています。皆さんも興味があればトライをして「にわか文楽愛好家」に!

宝生流 謡（うたい）

4班 渡邊 南

閑静な住宅街から鼓の音と地謡が聞こえてきま
すと都会の喧騒を忘れ、幽玄の世界にいざなわれる
ような心の安らぎを覚えます。

生まれは金沢、謡が盛んな町で叔父から学生時代
に手ほどきを受け、金沢を離れるまで稽古を積み重
ね、謡えるようになりました唯一の趣味です。機会
があれば、ご披露いたしたく思います。

謡といってもいろいろと流派があり、関西は観世
（かんぜ）流が主流、観世流の流祖観阿弥（かんあ
み）の長兄宝生太夫（ほうしょうたゆう）が観世か
ら別グループを作ったのが宝生流の始まりと言わ
れており、宝生流の流祖です。

宝生流は関東・北陸を主流とし、特に北陸は盛ん
で【加賀宝生】とも言われております。

そのほか金剛流、喜多流、金春流（こんばるりゅ
う）とあり、それぞれ流派によって謡の節回しや舞
の華やかさの違いはありますが、一番盛んな流派は
観世、次いで宝生の二派です。

謡はお腹の
底から発声、
本（うたいば
ん）の節（ふ
し）に沿って
母音の強弱、
長短、アタ
リ・フリ等々
いろいろな節



《見台と謡本、お扇子》

回して、舞の状況を表現する、すばらしい伝統芸能
です。

お稽古は叔父の抑揚を口伝えに真似をし、習得す
る事ですが、なかなか難しく、また、一節を丸暗記
するのも課題の一つで、忍耐と努力で習得をしまし
た。昔から「芸は盗みとれ」と申しますが、そう簡
単に出来ません。謡の声になるまで約 1 年掛かり
ました。さて謡（うたい）は一番を最後まで謡い
ますと相当時間が掛かります。そこで文句や節回し
の良いところだけ一節（いっせつ）うたうのを、小
謡（こうたい）と言います。

謡仲間達と四季折々宴席を設け、お座敷で競い合
いがするのが楽しみの一つ、1 人が小謡を披露する
と次々と仲間たちが競い謡い出す荘厳で幽雅な世
界に浸っていました。

パオ〜ン！！ ニボルネオの声ニ

3班 濱田嵯智子

降り続く雨。漆黒の闇を裂く絶え間ないゾウの鳴
き声。明け方、ロッジのドアを開けてのぞいてみる
と10メートルも離れていない薄闇の中に2頭の
ゾウの姿が見えた。ここはゾウの領域だったのだ。

1月28日から2月2日まで、自然学のボルネオ
観察会に参加した。渡辺弘之先生に加え、ボルネオ
の最奥地にまで分け入り、原住民と生活を共にし、
専門の哺乳動物のみならず、植物はもちろん、民
族・風俗習慣まで研究されてきた安間茂樹先生も同
行された。

キナバル公園のフタバガキの幹から幹にかけら
れた地上40メートルのキャノピー（樹冠）ウォー
ク、ハエがブンブン舞うラフレシアの花、サンダカ
ンへの機内から見たキナバル山の雄姿、孤児になっ
たオランウータンを野生に返すためのリハビリセン
ター。キナバタンガン川のクルーズで見た川を泳
いで渡るゾウ、あっという間に森の中に姿を消した
オランウータン、立派な鼻のテングザル、日向ぼっ
こをしているワニ、サルの生る木のように群れてい
るカニクイザル、木のてっぺんのカンムリワシ、川
面に張り出した枝でポーズをとっているコウハシ
ショウビン、サイチョウの夫婦、毒を持つマングロ
ープヘビ・・・どれもがすばらしい野生との出会い
であった。

しかし、ヘリコプターで見た眼下の景色がボルネ
オの厳しい現実を語っていた。川岸の向こうは鬱蒼
たるジャングルではなく、川の両岸にわずかに残さ
れた森林の帯の向こうは、緑豊かな熱帯雨林を切り
開いた整然と広がるアブラヤシのプランテーショ
ンだったのだ。ボルネオの野生の動物たちは、この
わずかに残された川岸の森で食べ物を探して生き
延びているのだ。

20年前、安間先生は著書にこう記されている。
「…手つかずの熱帯雨林。…理想郷はどこにあるの
だろう…」と。アブラヤシを食べるボルネオゾウは
「害獣」として殺されている。
パオ〜ン！ きっと今夜も泣いている。

俳句・川柳サロン

わたげ ふわこ

陰謀や言ひつつ食べる恵方巻き
葉芽花芽どうでもいいよなわるいよな
かわいらしオオカメノキの冬ウサギ
ロウバイの花びらすけて空青し
夕暮れに匂ひで誘ふ沈丁花

繭の中

水尾曳きて寒風を切る観光船
立春や岸边にはじける声愉し

谷坂修二

帰り道陽低くとも紅葉照り
白菜をかこひて甘し霜柱
湯たんぽをぐいと引きよす夜明け前
空をむく冬芽やさしく雪を載せ
峡谷に岩を貫くつらら有り
巖砕くつらら凜々起ちにけり

下浦美代

淡く濃く木々の新芽の出でんとす
《川柳》
下山した後腕に来る筋肉痛

大森美子

富士の奥庭にて
コケモモや日本一の富士の山
ヤナギラン風にふかれてお辞儀する
錦秋や竹田城跡二重虹（ふたえにし）
春嵐悲しき事を吹き飛ばせ
菜の花や愛でて食して楽しけれ
《川柳》
盛りそばの早食ひ大会盛り上がり
黄砂来て未透視悪し交差点
花粉症山も笑へぬ春なのに

宇治のジイジ

《人生初川柳》
雛人形すぐに片づけると孫の父

山上恵子

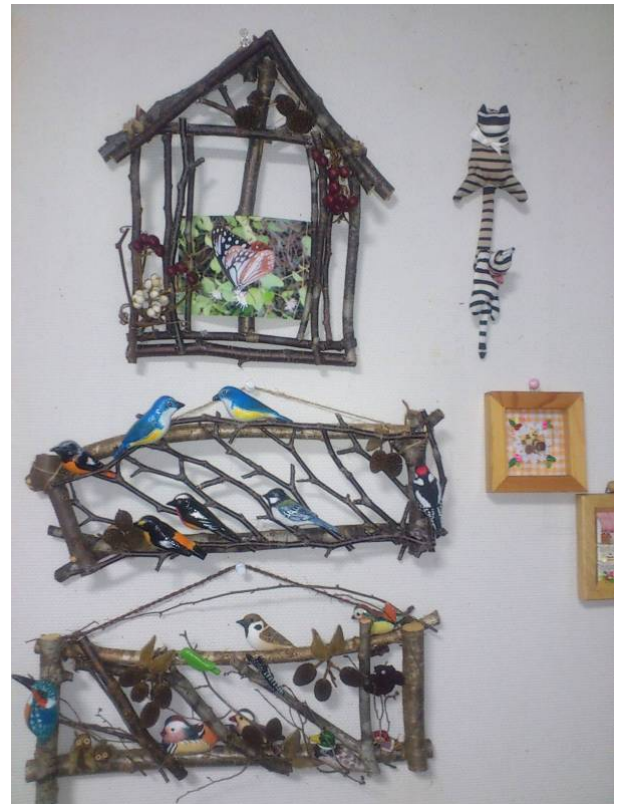
梅一輪咲きて世間の騒がしき
鶯の初音かすかに峠越ゆ
娘の嫁ぎゆっくりとなる雛納め

私の玉手箱

私の宝物 「バードカービングの小鳥たち」
畑 寿々子

この写真は、バードカービングで作成したお気に入りの小鳥たちです。私の宝物。

バードカービングとは鳥に似せて木を削ることで、私たち有志、小島さんが中心に15期で立ち上げ2年が経過しました。シニア自然大学のサークルです。先生は谷平先生で全日本でも毎年入賞される腕前で、シニア出身です。小島さんが代表で私が事務局長です。削るのも彩色も優しく手ほどきを受けるのですが、器用だと思っている？私でも、なかなか上達しません。しかし不思議な事に不細工な駄作でも、かけがえない私の可愛い小鳥に出来あがっていて、ブローチとして、いつも友人に見せびらかしています。そしてこの写真は、私の胸に飾られるのを、今日か明日かと待っている止まり木なのです。この止まり木も桜の小枝で作った、私のお気に入りです。



自然と文化だより
皆様のご協力により16号が発行出来ました。
次号をお楽しみに！（広報委員会）